会議結果記録

| | | | |
|---|---|---|---|
| 会議の名称 | 令和４年度第２回茅野市総合計画審議会 | | |
| 開催日時 | 令和４年７月 20 日（水）　18 時 30 分～20 時 10 分 | | |
| 開催場所 | 茅野市役所　議会棟大会議室 | | |
| 公開・非公開の別 | 公開（○）・非公開 | 傍聴者の数 | ０人 |

議題及び会議結果

| 発言者 | 協議内容・発言内容（概要） |
|---|---|
| | ○議事<br>１　開会<br>２　会長挨拶<br>３　協議事項<br>（1）審議会等の公開について<br>（2）第６次茅野市総合計画の策定に向けた与件の整理　資料１<br>（3）その他<br>４　閉会 |
| | ○議事録 |
| 事務局 | １　開会 |
| 会長 | ２　会長挨拶<br>３点お話しさせていただく。１点目は私生活について、私は今まで夜型で駅前の飲み屋さんにも通っていたが、コロナにより行動制限がかかり、朝型人間に変身した。また、デジタル化の到来を感じ、時代に乗り遅れてはならないと肝に銘じている。朝４時半におき、所属している３つのボランティア団体の会員あてにスマホからメールを送るが、メールアドレスのない方にはショートメールで、メールアドレスのある人にはＧメールで、家族関係にはラインを使って、写真や動画付きで近況報告を送る。パソコンはデスクに行かなければならないが、スマホは寝室でも居間でも使うことができ、その威力に驚かされている。午前中の仕事を朝の３時間で片付けるので、午前中は時間が空く。午後は会議と研修だが、今までは研修のために東京に、会議は長野まで行かなければならなったが、今ではオンラインで行い、自宅で完了する。ＤＸにより自分の時間がとても増えた。２つ目に私が驚いたのが、茅野市で試行運転を始めているオンデマンド交通ののらざあ。電話予約もできるので、当初は電話の方が多いのではないかと思っていたが、蓋を開けてみればスマホ予約が７割、電話予約が３割だったとのこと。高齢者は必死に時代についていこうとしていることがわかる。３つ目に驚いたことは、茅野市もコロナによって移住、二地域居住が進んでいること。茅野市が分譲しているグリーンヒルズビレッジは、数年前には１００区画以上売れ残っていたが、コロナが流行した令和２年以降問い合わせが急増し、令和３年度には４１区画が売却され、今年度は残り１６区画となり、そのうちすでに８区画に予約が入っているとのこと。<br>私たちを取り巻く社会環境は大きく変化している。本日は茅野市の現状や与件の整理について話があるが、委員の皆さんも自分の身の回りの変化について是非考えてみてほしい。 |

| | |
|---|---|
| | ３　協議事項 |
| 事務局 | (1) 審議会等の公開について<br>この審議会は前回同様公開することとし、議事録については発言者の氏名を匿名としたうえでHPに公開することとしたいがよろしいか。<br>（一同異議なし） |
| 事務局 | (2) 第６次茅野市総合計画の策定に向けた与件の整理　資料１<br>＝資料１に基づき説明＝ |
| 会長 | 大きく分けて６つくらいの話をしてもらった。１つ目は人口で、増減と構成バランスの説明があった。２つ目は産業で、茅野市の特色として観光と製造業が多いということ。３つ目は気候で、やはり気温の上昇が顕著。４つ目は自然災害ということで、近年深刻化しているという点は同感。５つ目はコロナの影響ということで、生活面と心理面で変化があるという話であった。６つ目が若者向けのアンケート結果ということで、若者がどんな考えを持っているかについて説明があった。委員の皆さんにはこれ以外にもこんなデータがほしいなどの意見をいただきたい。私としては、出生率などのデータは最新のものがあると思うので改めて示してほしいと思っている。 |
| 委員 | 今回の若者向けのアンケート結果については、回答数が少ないので、もう少し何らかあったほうが良い。５年間の総合計画とすると、５年後には大人になるような若年層にも調査をしたほうが良い。これから作る計画のためということもあるが、５年後に若者の意識がどのように変化したかを確認するためにも、現時点の意識調査をしておくとよい。 |
| 委員 | 若者向けのアンケート結果について、内容というよりも１０７８人に送って３９人しか回答がないこと自体、若者のまちづくりに対する意識の低さを感じる。もう少し若者の意見集約には力を入れるべき。気候について、諏訪の気温上昇が他と比べて急激な理由はあるのか、原因がわかればよい。 |
| 委員 | 若者向けのアンケート結果について、若者に選ばれるまちを目指そうとしても、この結果を見ると若者は自分たちには関係ないと思っているように感じる。若者と言っても、私の地区では４０歳代、５０歳代も青年と言われるので、それくらいの年代の人も若者として意見を聞いた方が参考になるのではないか。１８歳、１９歳くらいではどのようなまちを作ってほしいかと聞かれてもわからないのではないかという気はする。 |
| 委員 | 総務省などが人口動態や産業動態をシュミレーションするシステムを公開している。アンケートや気持ちといった部分も大事だが、このままいくと茅野市のエネルギー収支はどうなるのか、経済的にどうなるのかなどといった具体的なシュミレーションも必要ではないか。 |
| 会長 | 明るい未来だけではなく、危機感のあるデータも必要。事務局としていかがか。 |

| | |
|---|---|
| 事務局 | 具体的にどのようなデータが必要かお聞かせいただき、次回に向けて準備したい。 |
| 委員 | 例えば茅野市の収入は、隣の諏訪市から得られているのがどれぐらいなのか、どのように進めば諏訪市からの収入は減るのかなど、具体的な数字が必要ではないか。人口動態や産業構造といったものは経済産業省が公表している。そう言ったデータを基に、シュミレーターを活用して具体的な数字を示していかないと、気分的なものだけで物事を決めるのは難しいのでは。 |
| 副市長 | 長野県が総合計画策定のために行ったシュミレーションについては、県にも確認して使えるものがあれば活用して資料提示させていただく。 |
| 委員 | 茅野市の強みの最初に、雄大で清涼、豊かな自然環境とある。これはその通りであるが、これに加えて弱みのところに、自然環境の維持管理の枠組みの脆弱化ということを追加してほしい。茅野市の８割以上が林野・農地である。日本学術会議の試算によれば、農林産物生産以外にも、二酸化炭素吸収、表層崩壊防止、水源涵養、洪水緩和、水質浄化、レクリエーション等々様々な恩恵を受けており、年間 ha 当たりで貨幣換算にすれば森林で 270 万円以上、農地で 230 万円以上の便益が生まれていることになる。茅野市の場合では森林で毎年 562 億円、農地 48 億円の便益が生じていることになる。茅野市の持続的発展にとって全ての基盤となる自然環境をいかにして守っていくかが最重要課題である。自然環境維持・管理の枠組みが脆弱化しているので、新たなる枠組みを考えていく事が必要である。 |
| 委員 | 若い女性がどのように茅野市で過ごしているのか、例えば社会的な意思決定ができる場に、どれぐらいの女性が就いているか、女性のサークルなどへの参加率、自分の気持ちに無理のないところでどのように社会進出しているかといったようなことがわかるアンケートがあるとよいと思う。 |
| 委員 | 若者を呼び込みたいと言っているので、移住者、もしくは移住希望者がどういう理由でここを選んだか、これからここへ来たらどんなことをしたいのか、生活の糧はどうするのかなどを、年齢別に示してほしい。 |
| 委員 | 地方移住への関心が高いが、移住してきて、地域コミュニティに溶け込んで暮らしていきたいのか、単に環境だけで茅野市を選んだのかを聞いてみたい。パートナーシップのまちづくりの見直しという言葉は否定的で気になる。他では活発化とか育成とか強化という言葉を使っているので考えてほしい。公民館活動が地区のコミュニティでこれからもっと活発になっていかないとまちが元気になってかないと思うので、公民館ではどんな活動がされているかという資料を示してほしい。 |
| 会長 | 事務局から本日出た意見について少し感想等を。 |
| 事務局 | 特に若者や女性といったターゲットに対して、アンケートで意見集約で |

| | |
|---|---|
| | きるかはわからないが、もう少しいろいろな考えを聞くことを考えていきたい。強み、弱みについては、スーパーシティ構想の提案のタイミングにまとめたものであるため、若干偏った内容になっている。もう少し茅野市の実態に合った内容に更新していきたい。 |
| | (3) その他 |
| 事務局 | 本日は与件の整理ということで様々なご意見をいただいたが、次回に向けて引き続きメール等でもご意見をいただきたい。<br>次回の審議会は、市民アンケートや人口ビジョン等を更新の上、９月の下旬を目安に開催させていただきたいと思っている。 |
| 会長 | ４　閉会<br>次回に向けて、さらに資料や説明がほしいものがあれば事務局まで連絡してほしい。<br><br>以上 |